

●コラム 1－10年後・25年後の私たちの地域

～地域包括ケアシステムの構築に向けた緑区行動指針～

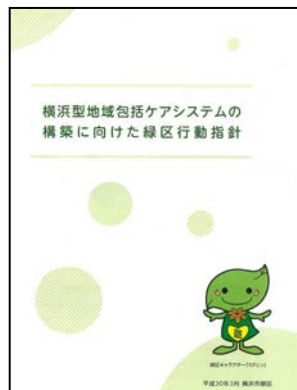
団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、日常生活圏域ごとの包括的な支援・サービス提供体制「地域包括ケアシステム」の構築が求められています。

平成30年3月、緑区の特色を踏まえた「横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた緑区行動指針」を策定しました。

緑区における「介護予防・健康づくり」「生活支援」「在宅医療・介護連携」「認知症対策」の4つの取組の現状と課題や、『目指すべき将来像』を関係者全員で共有し、同じ目標に向かって取組を進めていきます。

特に「介護予防・健康づくり」「生活支援」分野については、住民主体で運営される活動も多く、地域住民や事業者等と協働した取組が不可欠であり、活動を支援する体制整備を進めていくことも重要です。

そのため、「みどりのわ・ささえ愛プラン」での取組を生かし、相互に調和を図りながら進めていくことが必要となります。



●コラム 2－民生委員制度創設100周年

～小さな気づき 寄り添う心 頼れる地域の「つなぎ役」～

民生委員制度は大正6年に岡山県で創設された「済世顧問制度」に始まり、平成29年は、民生委員制度創設100周年を迎える記念すべき年となりました。現在、緑区では220名余の民生委員・児童委員が、民生委員法に基づき厚生労働大臣から委嘱を受けて活動しており、身近な相談相手、見守り役として地域の安全・安心を支えています。

11月29日には、横浜ブリキのおもちゃ博物館館長の北原照久氏を招いて、緑公会堂にて100周年記念講演会を開催しました。演題は、これからの社会に相應しい「元気で長生きするために知っておきたいこと ～すべては出会いによって決まる～」でお話しいただき、現任の民生委員・児童委員や退任された委員のほか、一般の参加者も含め総勢470名が来場し、会場は満席となりました。

熱気に包まれた1時間半にわたる講演と時おり流れる映像に、会場からは「また機会があったらお話を聞きたい。」という声や、「笑いとユーモア、周りへの感謝の気持ちを忘れずに過ごすように心がけたい」などの声が聞かれ、大盛況となりました。

また、緑区では「小さな気づき 寄り添う心 頼れる地域の『つなぎ役』」というタイトルの100周年記念誌を発行しました。初めてカラー印刷で作成し、各地区の様々な取組を写真を添えて紹介するなど、手作り感満載の仕上がりとなりました。

緑区役所は、これからも地域で活動する民生委員・児童委員をサポートしながら、地域福祉の推進を図っていきます。

